

審議会等議事概要

第5回滝川市子ども・子育て会議議事概要

日 時	平成27年 3月24日（火曜日）午後 1時30分～午後 3時25分
開催場所	滝川市役所 3階 301会議室
出席者	田代委員、尾崎委員、猪股委員、内田委員、津野委員、深尾委員、堀田委員、宮治委員、芳村委員（欠席 東委員、内潟委員、川口委員、種田委員、椿坂委員、西村委員、船奥委員）
議 事	<p>1. 開 会</p> <p>2. 保健福祉部長あいさつ</p> <p>3. 議 事</p> <p>①滝川市子ども・子育て支援事業計画（案）について 事務局）資料1に基づき説明 委員）重度の障がい、難病を抱えた子ども達を受け入れる保育所や私立幼稚園の加配、それに代わる負担の支援、入所要件の緩和、障がいのある子どもを抱えた世帯に対する支援、障がいを持っているお子さんの割合が上がっていることへの対応など、今後も継続的に考えていただきたい。</p> <p>委員）滝川市は乳児訪問をきちっと行っている。私は滝川市内で子どもを産んでいないが、転入してから予定を確認してくれて、家にまで訪問してもらった。また、遊ぶ場所とか、支援センターを紹介され、手厚く対応してもらったのは本当にありがたいと思っている。しかし、乳児健診や幼児訪問は100%になっていなく、もちろん親側の都合と思われるが、近年悲しい事件等が多いので、滝川市でそうならないように、100%の実現に向けて取り組み、子育てに対して手厚いまちというイメージを高めてもらいたい。</p> <p>委員）雪解け後、公園の遊具が壊れ、修繕されるまで時間がかかり、しばらく遊べなかったということがあった。幼稚園や保育所に行っていない3歳児未満の子どもたちにとっては、公園は大事な遊び場なので、対応をお願いしたい。</p> <p>委員）計画（案）ができたが、保護者の要望は1年1年変わってくると思われる。保護者のニーズに沿いながら、利用者のニーズをうまく吸い取っていくように進めてほしい。</p> <p>委員）34ページに北海道児童相談所の処理件数、滝川市家庭児童相談室への相談件数が掲載されているが、24・25年は北海道の件数が増え、滝川市は25年に減っている。26年の傾向を教えてほしい。</p> <p>委員）39ページに子育てを相談できる場所の調査結果が掲載され、友人・知人、親族以外では、未就学の子どもを持っている場合は保育士・保健師の割合が高くなっているが、特に保育士や幼稚園教諭の確保もそうだが、長く滝川市で働ける環境づくりも必要と感じている。市内に短大もあるので、滝川に残っても</p>

らうような仕組みを今後計画に盛り込んでもらいたい。

委員) 39ページに子育てに関する情報の入手先として、家族・親族、友人・知人が多くなっているが、小さいお子さんを持っている母親は、スマートフォンで検索していることが多いと思われる。市のホームページにも携帯用ページがあるが、パソコンで見るとようなウェブ構成になっており、スマートフォン専用のサイトにするなど工夫が必要である。

事務局) 乳児訪問に対し、いい評価をしてくださったことについては、担当職員にも伝えたい。乳児訪問については、生後1か月前後の新生児は保健師が全戸を、子育て支援センターの保育士は第2子以降で生後4か月以内の乳児がいる世帯を訪問しているが、保護者の拒否や、連絡がつかないなどにより100%に至っていない。そういう家庭には、健診時などの機会により把握するようにしている。このような情報をもとに、養育環境が心配な家庭には、保護者が就労していなくても保育所での生活が必要という判断になれば、保育所に入所させたり、乳児健診で発達心配なお子さんは、発達支援センターの通所につなげたりしている。

児童相談所等への相談については、数の増減より、地域の方の注意や関心が高まって、連絡の件数が増えたと前向きにとらえている。泣き声が聞こえるとか、子どもの様子が心配とかで連絡をいただくと助かる。虐待が疑われる電話での通報が年50件あるが、実際に虐待として対応するのは1ケタの7、8件で、そのうち児童相談所に通告し、対応をお願いすることになるケースは昨年で5、6人である。内容は、ネグレクトが多いが、保護者が精神的な病気だったり、発達に問題がある場合で養育する能力が不足しているケースがほとんどで悪意のあるネグレクトはない。暴力は0ではないがほとんどない。

また、警察からの通告がすごく増えていると聞いており、子どもの前での夫婦喧嘩をして、どちらかが警察を呼ぶというケースが結構あるらしく、このような場合は、子どもに対する心理的虐待という扱いとなり、児童相談所への通告件数の増加につながっている。

市の公式ホームページを全面的に見直す予定がある。携帯電話用のホームページも文字情報だけだったため、スマホに合わせた内容になると思われる。また、市の公式ホームページの子育ての情報も情報を探しづらいと認識しており、合わせて修正する予定である。

委員) 子どもを持つ家庭にとって、市立図書館の取組は非常に良く、どんどんクオリティーが上がっていると思う。例えば、子育て支援でいうと読み聞かせが良い雰囲気運営され、サロンのようなことが行われているほか、図書館に行くことで子育てをしている者同志が顔見知りになり、交流することにつながっていると思う。

事務局) 子育て支援センターで子育て講談をしているが、託児を設けて、お母さん達が子どもから離れてちょっと自由に過ごしてもらおうということに取り組んでいる。託児の数に限界があるため、1回の参加人数はどうしても少なくなってしまうが、より多く参加できて、多くのお母さん達に楽しい時間を過ごせる

機会を作れるように検討していきたい。

委員) 公園については、遊具が壊れてケガをしたという事件を受け、国の基準が設けられ、それに基づいて点検を強化している。予算の関係で長期にわたって使用禁止になったケースもあった。以前、公園づくりのワークショップを行った際に、お母さん方や幼稚園の先生方から、遊具はいらない、山が1つあって、あとは芝生になっていれば、子ども達はそれで遊ぶという意見もあった。遊具があると、滑り台で小さい子達が順番を守るとか社会的な教育ができる面はあるが、遊具ばかりではないという考え方もあるかと思う。

委員) 幼稚園で遊具を設置した時は安全基準で問題なかったが、事故が全国的に何件か発生してしまうと、ある段階を境にその遊具は使えているうちはいいが、破損したときは撤去とされている。安全基準は、事故を発生させない為には必要であるが、ハラハラドキドキさせるような遊具が子ども達は大好きであり、保護者も児童もおそらく遊具にそんなにバリエーションを求めていると思わないが、子ども達が好きなピンポイントの遊具をきちんと維持し、常に子ども達が遊べる公園であってほしいと思う。

②平成27年度における保育料について

事務局) 資料3に基づき

委員) 滝川市の私立幼稚園の保育料がかなり低く設定されている。少しずつ上げてはいるが、ベースが低い地域のため、上げると市外の幼稚園の入園が増えることになると考えられる。子ども・子育て新制度には来年度から移行できればと考えているが、このタイミングで保育料を見直し、利用される方に子育てに関して必要な額を負担し、家族にも関わってもらいながら子どもを育てていく環境をつくっていくということを目指していきたいと思っている。しかし、全国の基準では非常に厳しい状況となるため、地域として支援していただければという希望は持っている。経費の中で保育料の負担が占める割合はそれほど高くなく、教員・教職員に対しての人件費がむしろ増えていて、そこがクリアできるのであれば、保育料そのものを上げなくても対応できるのではないかとも思っている。

③その他

事務局) 今回の会議をもって、事業計画(案)の策定は一区切りとなる。計画(案)の策定にご協力いただいたことに感謝を申し上げる。委員の任期は2年間で12月9日までだが、状況に応じて開催するので、ご協力をお願いしたい。

4. 閉会

会議資料

資料 第5回滝川市子ども・子育て会議次第・議案資料